新ひだか町～春の森林教室～

５月２４日（土）新ひだか町三石の社会福祉センター及び三石ダム周辺の国有林において、新ひだか町教育委員会主催による森林教室を日高南部森林管理署の職員及び北海道林業技士会の会員が講師となって行いました。

今回、新ひだか町で初めての試みとなった森林教室には１１名が参加し、午前中は社会福祉センター内にて日高南部森林管理署の職員が森林の働きについての講話とカミネッコン作成指導を行いました。講話では、森林が土壌を支え土砂流失を防止していることや、これにより海が汚染されずに豊富な海産物が捕れている等の説明に参加者は熱心に聞き入っていました。カミネッコン作成では、カミネッコンの名前の由来や、どうして作られたのか等を学んだ後、段ボール紙で出来た材料を手に、悪戦苦闘しながらも３０分程で２つ完成させていました。完成品を手に植栽地となる国有林へ移動し、トドマツやカラマツ、ミズナラの苗をカミネッコンに入れて丁寧に植樹をしていました。三石ダムで昼食を取った後、午後からの北海道林業技士会の会員による三石ダム周辺の森林散策では、この周辺の森林を構成している木の種類やその割合の話、約３m四方で決められた区画内にある木の種類を数えるゲームなどをして森林にはたくさんの種類の木があることを学びました。最後に木材を利用した遊びとして、木の枝で作成したパチンコ（玉は松ぼっくり）での景品をかけた的当て大会をしました。皆さん、前方のみならず後方にも飛ばしながら夢中になってお目当ての景品を目指して松ぼっくりを飛ばしていました。参加者からは「急斜面を歩いての植樹は大変だったが、達成感を得られた」「野草・高山植物撮影会をしてほしい」「昔と今との自然環境の変化について学びたい」など、再び森林とふれあう機会を望む声が出るほど充実した１日を過ごして頂けたようです。